

医療・介護とその関連職における職業同一性について

ーエゴグラム・OK グラムを用いてー

松田 勇 小林隆司 難波悦子 山口隆司 丸田和夫*

Occupational identity to the medical, care and the related staff.

ーBy using egogram and OKgram questionnairesー

Isamu MATSUDA, Ryuji KOBAYASHI, Etsuko NAMBA, Ryuji YAMAGUCHI, Kazuo MARUTA

要 旨

本研究の目的は医療と介護の職員およびその関連職員の「職業同一性」を明らかにすることにある。方法はエゴグラムを用いて自我状態を調査した。さらに OK グラムを用いて自己および他者に対する心の基本的構えを調査した。その結果は以下の通りである。1. 「現在の自己像」は NP の得点が最も高く、続いて AC の得点が高かった。「理想の職業像」では NP と A の得点が高く、逆に FC と AC の得点が低かった。「苦手な人物像」では FC の得点が高く、逆に NP の得点が低かった。2. エゴグラムパターンの分布は NP 優位型が最も多く、次いで AC 優位型が多かった。3. OK グラムでは自己肯定と他者肯定が高かった。結論；「職業同一性」を考える上で NP 優位型と AC 優位型のエゴグラムパターンを示す職員が多いことが特記できる。

キーワード：職業同一性、交流分析、エゴグラム、OK グラム

Key words : occupational identity, Transactional Analysis, egogram, OKgram

はじめに

エゴグラム (egogram) とは Eric Berne (1954) により創案された交流分析 (TA ; Transactional Analysis) の手法を基礎とし、Dusay J.M.により自我の状態をより定量的・構造的に捉える方法として考案されたものである。その後、Heyer N.R.により質問紙法としてのエゴグラムが開発され今日に至っている¹⁾。

本邦では九州大学心療内科の池見、杉田により1974年に導入された。その後、緒家により質問紙法として多くの考案がなされ、現在、臨床応用などの研究も盛んに行なわれている²⁻⁵⁾。

精神分析では人の心理を超自我・自我・イドの領域に分け無意識下の心理状態を強調しているが、交流

分析では個人の自我の状態を「親 (P ; Parent)・大人 (A ; Adult)・子供 (C ; Child)」の状態として捉え、無意識の心理状態は強調しない。さらに、親の自我状態は批判的親 (CP ; critical Parent) と保護的親 (NP ; Nurturing Parent) に、子供の自我状態は自然な子供 (FC ; Free Child) と順応した子供 (AC ; Adapted Child) に分けられる。エゴグラムはこれらの状態をカテゴリー化し質問項目に答えるように調査される。各側面の自我の特色は表1のごとく示される⁶⁾。

OK グラムはエゴグラム同様に交流分析の理論を基に考案されたものである。自己および他者に対する心の「基本的構え」(basic position) を自己・他者・肯定・否定で4象限化し、「自己肯定」(I am OK) と「自己

吉備国際大学保健科学部作業療法学科
〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町 8

*また老年リハビリ研究所

〒921-8013 金沢市新神田 1-6-2

Department of Occupational Therapy, School of Health Science, KIBI International University
8, Iga-machi, Takahashi-city, Okayama 716-8508, Japan

Malta Research Institute, Rehabilitation Science and Healthy Longevity
1-6-2, Shinkanda, Kanazawa, 921-8013, Japan

表1 5つの自我状態の特色

CP	批判的な親の心	信念に従って行動する厳しい父親のような親の心です。自分の価値観や考え方をゆずろうとせず、他人を批判したり非難したりします。良心や理想と深く関連していますが、CPが強すぎると、尊大で支配的な度、命令的な口調などがめだつようになります。
NP	保護的な親の心	思いやりをもって世話をするやさしい母親のような親の心です。親切・いたわり・寛容な態度と関連しており、親身になって人のめんどろをみる保護的なやさしさが特徴です。NPが強すぎると、過保護やおせっかいになりやすいので気をつけてください。
A	大人の心	事実に基づいてものごとを判断しようとする合理的な大人の心です。Aはコンピューターにたとえられ、データを集めて論理的に処理していく働きをします。Aが強すぎると、打算的で冷たく情緒の乏しい人間味に欠けた人になるおそれがあります。
FC	自由な子供の心	自分の欲求のままにふるまい、自然の感情をそのまま表わす何ものにも縛られない自由な子供の心です。明るくて無邪気ですが、わがままな面があり、自分かってで依存的な面をもち、他人への配慮に欠けることがあります。
AC	順応した子供の心	自分の本当の気持ちを抑えて相手の期待にそおうと努める順応した子供の心です。ACは自分を押え社会規範に従って行動する傾向をもちますが、それが強くなりすぎると、イヤなことをイヤといえずにストレスを心の中に溜めこむことになってしまいます。

引用：文献6）新里里春 他より

否定」(I am not OK)、および「他者肯定」(You are OK)と「他者否定」(You are not OK)の4つのカテゴリーから構成された質問紙法である¹⁾。

今回の研究では医療と介護の職員およびその関連職における職業同一性に関して上記の質問紙法を用いて調査し、検討することを目的とした。

対 象

対象はN市で開催された地域りハビリテーション研修会(2006.3)に参加した医療、介護のスタッフおよびそれらの施設に勤務する事務系職員である。質問紙調査の対象者は56名であり、内訳は表2のごとくである。なお、本調査においては参加者に十分な説明を行い、研究以外の目的でデータを一切使用しないこととし同意を得た。さらに、個人が同定される氏名等の記載は任意とした。その結果、多くの対象者は無記名を選択した。

表2 対象者の内訳

	人数	男・女	平均年齢±SD	平均経験年数±SD
介護職	34人	2 32	38.0歳 ±13.0	8.2年 ±7.7
医療職	16人	1 15	42.2歳 ±13.2	19.4年 ±12.8
事務職	6人	5 1	52.2歳 ±20.3	20.3年 ±16.1
全体	56人	8 48	40.7歳 ±13.6	12.7年 ±11.7

SD：標準偏差

方 法

1. 今回の研究で使用したエゴグラム質問紙は岩井ら⁷⁾が考案したもので自我の各側面であるCP, NP, A, FC, ACに対してそれぞれ10項目の質問で合計50項目の質問紙として構成されている。各質問項目の例は以下の通りである。CP；人の言葉をさえぎって、自分の考えを述べることがありますか。NP；他人に対して思いやりの気持ちが強い方ですか。A；自分の損得を考えて行動する方ですか。FC；自分をわがままだと思いますか。AC；思っていることを口に出せない性質ですか。また各質問項目はそれぞれ「はい」2点、「いいえ」0点、「どちらでもない」1点と採点し各カテゴリーは20点満点で算出される。今回の調査では自我状態の判定を以下の3つの条件設定でおこなった。

- 1) 「現在の自己像」；職場でそれぞれの立場で仕事している時の自己のイメージ。
- 2) 「理想の職業像」；各自が考える理想とする現職業に対するイメージ。
- 3) 「苦手な人物像」；日常の職務上で対応している人で苦手と感じている人のイメージ。

また、全体の自我状態のパターンすなわちエゴグラムパターンの判定には東京大学医学部心療内科編の「新版エゴグラム・パターン」⁸⁾の19パターン分類を参考に筆者らが判定をおこなった。

2. OK グラムは心の「基本的構え」を評定するもの

で杉田¹⁾の考案した質問紙を用いた。本質問紙は自己肯定尺度、自己否定尺度、他者肯定尺度、他者否定尺度からなり、それぞれ10項目の質問で構成されている。各質問項目の例は以下の通りである。自己肯定尺度；私は自分自身が好きである。自己否定尺度；私は皆から好かれる人間ではない。他者肯定尺度；他の人のやり方や考え方が自分と違っていても特にイヤな気持ちにならない。他者否定尺度；私は根本的には人間を信用していない。また採点はエゴグラム同様、「はい」2点、「いいえ」0点、「どちらでもない」1点とし、各カテゴリーはそれぞれ20点満点で算出される。

3. 統計処理はystat2006.xlsを使用した。今回のデータはすべてノンパラメトリックな変数であり正規性の適合は χ^2 test、対応のある2変数はWilcoxon t-test、対応のない2変数はMann-Whitney U-testそして3変数以上はFriedman's X2r-testを用いて有意性の検定をおこなった。

結 果

1. 全体のエゴグラム得点について

調査対象者全体のエゴグラムの各側面および3条件での平均値と標準誤差を表3に示す。「現在の自己像」はNPの得点が最も高く、続いてACの得点が高かった。「理想の職業像」ではNPとAの得点が高く、逆にFCとACの得点が低かった。「苦手な人物像」ではFCの得点が高く、逆にNPの得点が低かった。各得点間の統計的有意性はCPの「現在の自己像」と「理想の職業像」および「苦手な人物像」間、そしてACの「理想の職業像」と「苦手な人物像」間で差は認められなかったが、それら以外のすべての変数間で有意な差が認められた。

2. 全体のエゴグラム・パターンについて

それぞれのエゴグラム・パターンを図1に示す。「現在の自己像」のエゴグラム・パターンはNPの得点が他より高く、NP優位型であり通称では「世話やきタイプ」と評されている。「理想の職業像」のエゴグラム・パターンはNPとAが高く、相対的にFCとACが低いタイプである。このパターンは台形型bと分類される。通称では「ボランティアタイプ」または

表3 各エゴグラムカテゴリーの比較

		平均±標準誤差	理想の職業像	苦手な人物像
			有意水準	有意水準
C P	現在の自己像	11.0±0.43	ns	ns
	理想の職業像	12.8±0.34		*
	苦手な人物像	11.1±0.50		
N P	現在の自己像	14.9±0.46	**	**
	理想の職業像	18.8±0.17		**
	苦手な人物像	3.2±0.54		
A	現在の自己像	10.7±0.47	**	**
	理想の職業像	17.3±0.02		**
	苦手な人物像	6.7±0.59		
F C	現在の自己像	10.0±0.55	**	**
	理想の職業像	7.0±0.45		**
	苦手な人物像	13.6±0.56		
A C	現在の自己像	13.1±0.52	*	*
	理想の職業像	7.5±0.74		ns
	苦手な人物像	8.0±0.66		

Wilcoxon t-test ns: P>0.05 *P<0.05 **P<0.01

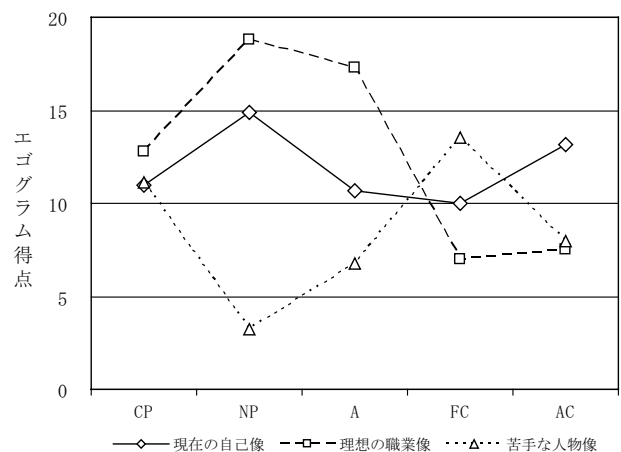


図1 対象者全体の平均エゴグラム (n=56)

「円満タイプ」と評されている。「苦手な人物像」はNP低位型もしくは逆N型cと分類される。このパターンは通称、「かんしゃくもちタイプ」または「思い込みタイプ」評される。

3. エゴグラム・パターンの分布について

「現在の自己像」のエゴグラムを対象者ごとに個別にプロットし、パターン分類した結果を図2に示す。

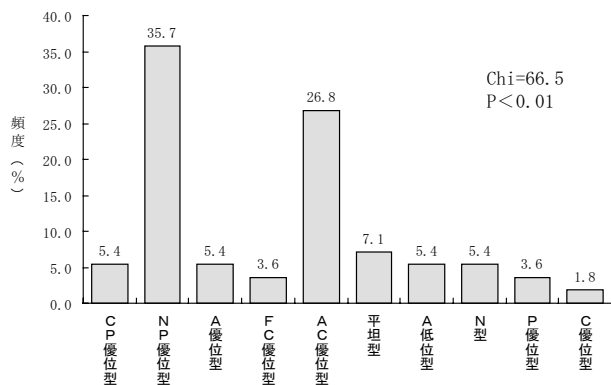


図2 現在の自己像エゴグラムパターンの分布(n=56)

全体では10パターンに分類できた。各パターンの特徴はCP優位型は厳格さや信念の強さなどをあらわす「がんこおやじタイプ」、NP優位型は親切やいたわり・寛容さなどの「世話やきタイプ」、A優位型は冷静で客観的判断を優先する「コンピュータのタイプ」、FC優位型は自然な感情や無邪気さなどの「自由奔放タイプ」、AC優位型は感情を押さえ相手の期待に沿おうとする「自己犠牲タイプ」、平坦型は温厚でバランス感覚のすぐれた「凡人タイプ」、A低位型は困難な状況で葛藤状態になりやすい「現実無視タイプ」、N型はサービス精神旺盛な「お人よしタイプ」または「おふくろさんタイプ」、P優位型は勤勉で優しく義務感の強い「干渉タイプ」、C優位型は快活な面と依存的な面の同時に示す「気ままタイプ」と通称されている。これらの分布中ではNP優位型が35.7%と最も多く、次いでAC優位型が26.8%と多かった。両者を合計すると62.5%である。その他の8パターンはすべて10%未満の分布であった。

4. 職種別のエゴグラムについて

職種を医療、介護および事務職の3群にわけて「現在の自己像」「理想の職業像」「苦手な人物像」ごとの各群のエゴグラムパターンを図3-a, b, cに示す。各群ともほぼ同様のエゴグラムパターンが示されているが、図3-aの「現在の自己像」ではACにおいて介護職が医療職より得点が高い傾向が示され、図3-bの「理想の職業像」ではFCにおいて事務職が他の群より得点が高い傾向が示された。図3-cの「苦手な人物像」ではNPにおいて介護職に他の群より得点が高い傾向が示された。

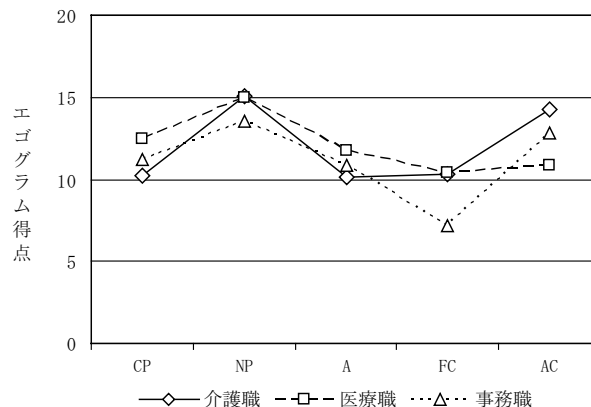


図3-a 現在の自己像エゴグラムの職種別比較

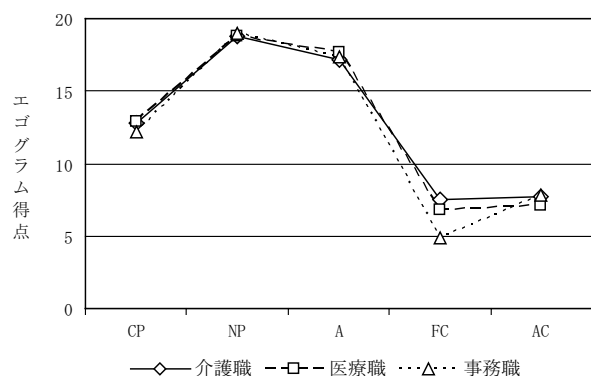


図3-b 理想の職業像エゴグラムの職種別比較

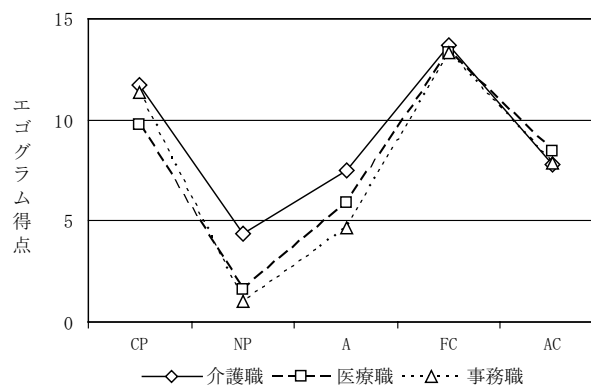


図3-c 苦手な人物像エゴグラムの職種別比較

5. OK グラムについて

対象者全体のOKグラムの平均得点を図4に示す。自己肯定尺度の平均得点は12.0点で、自己否定尺度の同得点は8.9点であり、自己肯定が高い。他者肯定尺度の同得点は16.6点であり、他者否定尺度の同得点は4.7点であり、他者肯定が高い。この4群の得点に有意な差が認められた。

6. 職種別の OK グラムについて

介護職、医療職および事務職の3群に分けた OK グラムの平均得点を図5に示す。各尺度内での職種間に有意な差は認められなかった。

7. エゴグラムと OK グラムの比較

「現在の自己像」のエゴグラムパターンで最も多かった NP 優位型と AC 優位型における OK グラムの得点との比較を図6に示す。自己肯定尺度では NP 優

位型が12.8点であり、AC 優位型は9.6点である。一方、自己否定尺度では NP 優位型が8.2点であるのに対し、AC 優位型は11.5点である。このことは NP 優位型と AC 優位型では自己の肯定・否定で逆転の関係にあることが示されている。

考 察

医療、介護とその関連職における「現在の自己像」すなわち「自己同一性」は3者間で大きな隔たりはなく NP 優位型と AC 優位型に代表される。このエゴグラムパターンの解釈としては世話やき的で自己犠牲的な自我状態であることが指摘されよう。これは患者や利用者に対して献身的で保護的に接する態度を生成し、自己犠牲的なサービス精神に特徴づけられるものと言える。さらに、エゴグラムパターンでの FC より AC の得点が高い点に関しては自己の自然な欲求や感情を抑え、我慢強く相手に接している状況が伺われる。特に介護職は医療職に比べこの特徴が強く現れている点が指摘できる。AC の特性として協調性に富む点や慎重である点は長所として支持される一方、短所としての遠慮がちである点や自主性に欠ける点は「職業同一性」の観点からは今後の課題となろう。

次に「理想の職業像」は介護、医療とその関連職が自己の職業に対して考えている理想型であり、すなわち理想とする「職業同一性」として捉えることができる。今回の調査で示された「理想の職業像」の全体の平均エゴグラムパターンは台形型 b で、このパターンは通称「ボランティアタイプ」または「円満タイプ」と評されている。このパターンについて杉田¹⁾は「自己他者肯定」(I am OK. You are OK) の基本的構えの典型例と述べている。また、新里⁶⁾はこのタイプを看護婦長タイプと称している。看護師長に求められる自我状態とは医療職としてまた介護職として理想のイメージを表現したものと考えられる。このエゴグラムパターンにみられる中等度に高い CP の長所は秩序を維持し規範を尊び良心に従いさらに責任感の強さに求められる。また NP の優位性は相手に共感し保護し受容的に接する態度として表現されるであろう。A の高さも合理性を尊びながら物事を客観的に判断し沈着冷静に対応する自我状態を反映していると言える。一

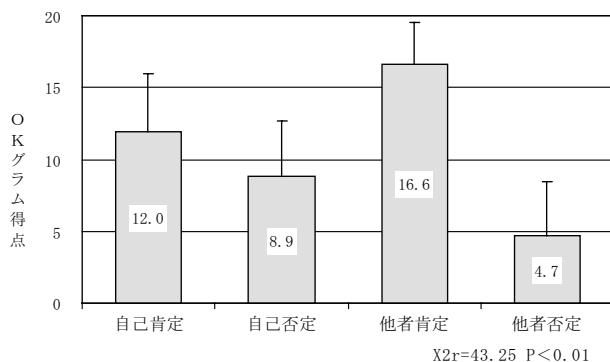


図4 対象者全体の平均 OK グラム (n=56)

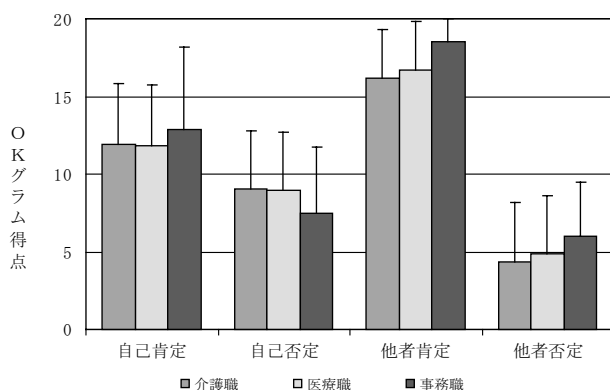


図5 職種別の平均 OK グラム (n=56)

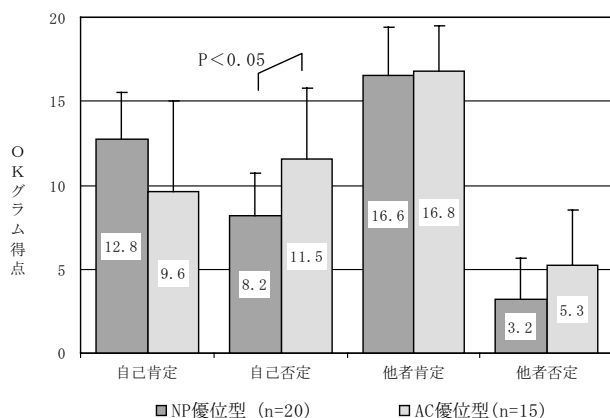


図6 エゴグラム2型間の OK グラムの比較

方、FC と AC の特徴が抑えられている点では感情的にならず他に依存することなく自主性を保った行動を保障していると考えられる。医療・介護職の理想の「職業同一性」を示唆していると言えるであろう。

医療、介護とその関連職にとって苦手と感じている患者や利用者の自我状態を具体的に表現したものが「苦手な人物像」のエゴグラムパターンであろう。このパターンは NP 低位型もしくは逆 N 型 c と分類された。その特徴は「かんしゃくもちタイプ」または「思い込みタイプ」評される。NP が低い点で思いやりに欠け、相手の立場や状況に配慮がなく、CP が高い点とあいまって排他的になったり攻撃的な行動をとる傾向を現している。また、FC が高く AC が低い点は自己中心的でわがままであり感情的になりやすく自己主張の強いタイプである。その一方では協調性や慎重さに欠ける傾向を示すタイプでもある。介護、医療とその関連職にとって、このような自我状態を示す患者や利用者に対してどのように接すれば良いのかが大きな課題となる。具体的には衝動性や攻撃性の強い認知症の患者や利用者がこのタイプと想定されるが、彼らの自我状態を裏返してみれば、自分に自信がなく、またそのことから派生する不安傾向が強いことも指摘できよう。彼らの示す天真爛漫さや快活さを支持しながら不安を軽減し小さな成功体験や肯定的な人間関係を築いていけるよう援助することが重要と考える。

今回の調査対象者の「現在の自己像」のエゴグラムパターンの分布では NP 優位型が35.7%と最も多く、次いで AC 優位型が26.8%である。両者を合計すると62.5%であった。東京大学医学部心療内科新版 TEG II 研究会の1221名の調査データ⁹⁾では NP 優位型が5.2%であり、AC 優位型が11.5%であった。両者を合わせても16.7%にすぎない。今回の調査対象者は介護、医療とその関連職であり、「職業同一性」を考える上で NP 優位型と AC 優位型のエゴグラムパターンを示す職員が多いことが特記できよう。日々の医療や介護の業務の中で NP 優位型の職員は「患者さんや利用者さんに思いやりを持って優しく接し、気持ちを受容的に理解しながら進んで世話する」そして AC 優位型の職員は「協調性に富み、我慢強く接する」と言える。「職業同一性」もしくは適性面を示唆するものと

考える。

Abstract

The aim of this study is to define “occupational identity” to the medical, care and the related staff. We investigated “ego state” by using egogram. Furthermore we investigated “basic position” to the mind as self and for others by using OKgram. Results were as the followings; 1. As for “present self-image”, NP score was the highest, and AC score was next. As for “an idealized occupational image”, NP and A score were higher, and FC and AC score were conversely lower. As for “the person image which feel as poor/weak”, FC score was higher, and NP score was conversely lower. 2. In the distribution of egogram-pattern, there was most NP-dominance type, and the next, was AC-dominance type. 3. Self-affirmation and others-affirmation as “basic position” were higher in OKgram. Conclusions are follows; it concerns the “occupational identity”, special mention can be noted that majority staff members show the type NP dominance and the type AC dominance in egogram-pattern.

文 献

- 1) 杉田峰康 (2000) 医師・ナースのための臨床交流分析入門 第2版. 医歯薬出版 東京 p1-86
- 2) 桂載作 (2002) 医療における効果的なチームコミュニケーション. 交流分析研究27(2):25-30
- 3) 中川巳子 渋谷百合子 (2002) 患者と看護師のやりとりの傾向—効果的な相互行為のあり方. 成人看護 I 33:80-82
- 4) 大澤早苗 米村敬子 (2005) スタッフ同士に軋轢を生じた人間関係. 看護実践の科学30(3):32-37
- 5) 岡田俊 (2001) 精神科看護におけるやりとりの分析—自我状態と臨床経験の影響に関する検討—. 交流分析研究26(1):68-73
- 6) 新里里春 水野正憲 桂載作 他 (1986) 交流分析とエゴグラム. チーム医療 東京:p27 p58
- 7) 岩井浩一 石川中 森田百合子 他 (1978) 質問

紙法エゴグラムの研究, 心身医18(3)210-217

8) 東京大学医学部心療内科 (1995) 新版エゴグラム・パターン, 金子書房 東京: p49-140

9) 東京大学医学部心療内科 TEG 研究会 (2006) 新版 TEG II 解説とエゴグラム・パターン, 金子書房 東京: p82

